

ローカルベンチャーリサーチ # 1

113人のホンネ！
大公開！！

地域おこし協力隊OB・OG アンケート調査レポート

2019年10月21日

ローカルベンチャー協議会

【分科会】地域にチャレンジャーを呼び込み隊

調査の背景	．．．	P. 3
アンケート調査実施概要	．．．	P. 4
アンケート調査結果の考察	．．．	P. 5
アンケート実施結果サマリー	．．．	P. 6
アンケート回答者の属性	．．．	P. 10
移住検討から応募まで	．．．	P. 16
任期中の仕事について	．．．	P. 26
住まいなどの生活環境について	．．．	P. 35
コミュニティについて	．．．	P. 39
お問い合わせ	．．．	P. 48

1) 10自治体が連携してノウハウシェア、学び合いながら地域での新規ビジネスを創出

ローカルベンチャー 協議会（以降、LV協議会）では、2016年9月より、10自治体が連携し、各地のノウハウや成果、問題意識を共有し、学び合いながら各地で新規ビジネス創出を行ってきました。2018年度末までの2年半の成果は、18.5億の売上規模増、120件の新規事業創出、192名の起業型人材の地域へのマッチングだけでなく、各地で失われた機能が復活したり、これまで地域になかった機能も生まれています。

2) 新規ビジネス創出の鍵は、自治体と中間支援組織がタッグを組んで行うきめ細かい支援

10自治体は、それぞれ地元の間支援組織とタッグを組み、自治体だけでは難しい、きめ細やかなビジネス創出のサポートを行っています。自治体ごとに異なるサポートの仕組みと学び合いのプラットフォームについては、多くの自治体から問い合わせをいただくこともあり、中間支援機能の立ち上げ支援サービスの開発も進めています。

3) 学び合いの中で、地域外から挑戦者を呼び込む方法について研究する分科会が発足

2019年2月、新規ビジネスに挑戦する人材を地域外から呼び込む方法を研究する分科会がLV協議会内の有志により立ち上がりました。各地の事例を共有するなかで、私たちは移住者の視点に着目しました。

これまで、私たちは、自治体側の視点で議論をしていましたが、当事者である移住者側の視点に主語を転換することで、より本質に近づけるのではないかと考え、移住者と地域の幸せなマッチングをテーマに絞ることに決めました。

4) 移住者と地域の幸せなマッチングについてのアンケート調査の実施

移住者の本音を聞くために、LV協議会の10自治体に限らず、地域外から移住しやすい、挑戦しやすい環境調査のためアンケートを実施することにしました。

対象については、様々な移住パターンがある中で、協力隊と地方自治体のマッチングに非常に有効な制度である「地域おこし協力隊」のOB・OGに絞ることで、分析がしやすく、多くの自治体の参考になるデータが集められるのではないかと考えました。OB・OGに絞ったのは、移住後、一定期間の期間（任期満了の場合は3年）が経過していることで、自身の状況を冷静にふりかえって回答がいただけるのではないかと考えました。

5) 北海道・東北から九州・沖縄まで100名を超える回答

アンケートの結果、2019年8月～9月の10日間で、113名の回答が寄せられました。このレポートは、その回答を分析・まとめたものです。

【目的】

ローカルベンチャー協議会（以下LV協議会）<https://initiative.localventures.jp/>は、地方創生に取り組む地方自治体10団体で構成されている。

LV協議会のテーマ別分科会「地域にチャレンジャーを呼び込み隊」では、地域に挑戦者を呼び込むために、大変有効な制度である「地域おこし協力隊」に注目し、地域おこし協力隊と地域の幸せなマッチングについて研究をしている。具体的には、地域側はどのような姿勢で協力隊の受入をするべきか、どうすれば協力隊がハッピーに活動でき、幸せな移住につながるのかを、調査・分析により導き出したいと考えている。

そこで、実際に地域おこし協力隊制度を活用して地域に入り、任期を終了された方に意見を聞くために、アンケート調査を実施し、地方自治体が今後のよりよい協力隊募集や移住の事業に参考する。

【期間】

令和元年8月30日～9月8日

【対象】

地域おこし協力隊制度を活用して地域に入り、任期を終了された人

【回答方法】

インターネットアンケート

【回収数】

113人

◆Uターンを含めた関係人口づくりを急げ！

- 協力隊員の約半数は、Uターン・Jターンであることから、既に赴任する自治体と何らかの関係があることが重要だと考える。赴任地の選択で、「知り合いに誘われて」などの自由記入から見ても、地域を選択する場合、既に関係性がある場所から選ぶことが多いと考えられる。国が重要視する関係人口づくりは、あながち間違っていないと考えられる。

◆相談窓口と行政のサポート体制は、満足度に直結する！

- 行政の協力隊の担当課とは別に移住や生活に関する相談窓口は、回答者が所属した自治体のうち約3割しか持っていない。相談窓口がある場合、任期中に困ったことがある人は少ない。赴任地の決定で「行政などのサポート体制がよかったから」と回答している人は、仕事内容の満足度が9割を超えているなど、深い関連がある。任期中に困ったことが最も多いのが「行政職員との人間関係やコミュニケーション」であり、仕事の満足度が低い人が、「行政職員との関係」に困っている割合が高い。行政の体制・対応は、地域おこし協力隊の大きなポイントであると言える。

◆仕事経験で地域おこし協力隊の適性がわかる！？

- 前職の業務内容が、「定時で終わる仕事」「ルーティンワーク」「デスクワーク」「高い専門性」「職人的な手作業」だった人は、仕事の満足度が低い。逆に「企画など新しいことを求められる」「困っていることの解決を求められる」「関係者と調整を要する」「人を支援する」仕事をしてきた人は、経験が活きており、満足度も比較的高い。

◆仕事の満足度と生活の満足度は比例する！？ポイントは相談相手か！？

- 仕事の満足度が高いほど、生活の満足度も高い傾向にあり、比例関係にあると言える。仕事の満足度が低い人ほど、相談・雑談できる相手が少ない傾向にある。孤立を防ぐことが、仕事も生活も満足度につながるのではと考えられる。

■ 移住検討と協力隊への応募まで

- 協力隊員の約半数は、Uターン・Jターンである。(P.13)
- 移住の検討は、20代後半は仕事や働き方を考え、30代前半はライフスタイルや子育てを考えるとキッカケの場合が多い。特に子どもがいる場合、半数以上はライフスタイルや子どもの教育環境を考えている。(P.16,17)
- 実際に赴任地を選ぶ場合、「やりたい仕事だった」と回答していることが一番多いが、1/4が回答している「その他」の自由記入を見ると「出身県だった」「知り合いに誘われて」など、なんらかの関係性があることが示されている。地域を選択する場合、既に関係性がある場所から選ぶことが多いと考えられる。(P.18)
- 家族から応募に反対される理由は、仕事面の割合が圧倒的に多いが、移住の検討理由で「地方で働きたい」「都会に疲れた」と回答している人が反対される傾向が大きい。安易な考えが反対の理由と考えられる(P.19,20)
- 反対している家族への説得は、「地理的な条件の有利性や将来ビジョンを説明した」「時間をとって自分の思いを説明をしたら納得してくれた」など、しっかりと説明していることが多い。ただ、「説得せず無視して行動」「強引に」など、強行突破もある。(P.21)
- 行政の地域おこし協力隊の担当課とは別に、移住や生活に関する相談窓口を持ってるのは、約3割。(P.22)
- 応募した一番の決め手は、「仕事の内容」が全体として高い傾向にあるが、年齢、配偶者・子どもの有無によって「受入体制」や「家族の合意」など大事なところは差異がある。(P.23,24)

■ 地域おこし協力隊員の仕事について

- 仕事内容の満足度は、約7割が満足している。これまでの仕事経験で「定時で終わる仕事」「ルーティンワーク」「デスクワーク」「職人的な手作業」の仕事をしてきた人は、全体よりも10%以上満足度が低い。地域おこし協力隊の仕事はこれらとは逆の仕事であると言えるのかもしれない。赴任地を選んだ理由で「行政などのサポート体制がよかったから」と回答している人は、満足度が9割を超えており、サポート体制はキーポイントと言える。また仕事内容では、「地区やテーマ横断的なこと」が最も満足度が高い。（P.27,28）
- 前職までの経験は、約2/3が活かしていると回答している。これまでの仕事経験から「企画など新しいことを求められる」、「困ってることの解決を求められる」、「関係者と調整を要する」、「人を支援する」仕事をしてきた人は、全体よりも10%以上経験が活かしている。（P.29）
- 協力隊の仕事が、任期終了後の仕事に繋がっている約7割が回答。地域を選んだ理由で、「元々その地域に移住したかった」、「子どもを育てる環境がよかった」を選んでいる人は、全体よりも10%以上終了後の仕事に繋がっている傾向にある。（p.31）
- 仕事の総合的な満足度は、6割を超える人がプラスの評価をしている。これまでの仕事経験から「定時で終わる」「高い専門性」「職人的な手作業」の仕事をしてきた人は、全体よりも10%以上プラスの回答が低い（マイナス）傾向にある。地域を選んだ理由で「行政などのサポート体制がよかったから」を選んだ人は、全体よりも20%以上満足度が高い傾向にある。やはり行政のサポート体制と満足度は関連が深いと考えられる。（P.32,33）

■ 住まいなどの生活環境について

- 住まいの満足度は、8割を超える人がプラスの評価をしている。「配偶者がいる人」、「子どもがいる人」は、それぞれいない人に対して、「とても満足」「やや満足」のプラスの評価が、共に10%以上高い。単身者に合った住宅が少ないと考えられる。(P.35)
- 買い物など生活環境に関して、2/3は問題を感じていない。「配偶者がいる人」、「子どもがいる人」は、それぞれいない人に対して、それぞれ約10%以上問題を感じている割合が高い。(P.36)
- 仕事以外の生活の満足度は、8割を超える人がプラスの評価をしている。配偶者がいない人、子どもがいない人の方が、いる場合よりもプラスの評価をしている。仕事の総合的な満足度では、仕事の満足度が高いほど、生活の満足度も高い傾向にあり、比例関係にあると言える。(P.37)

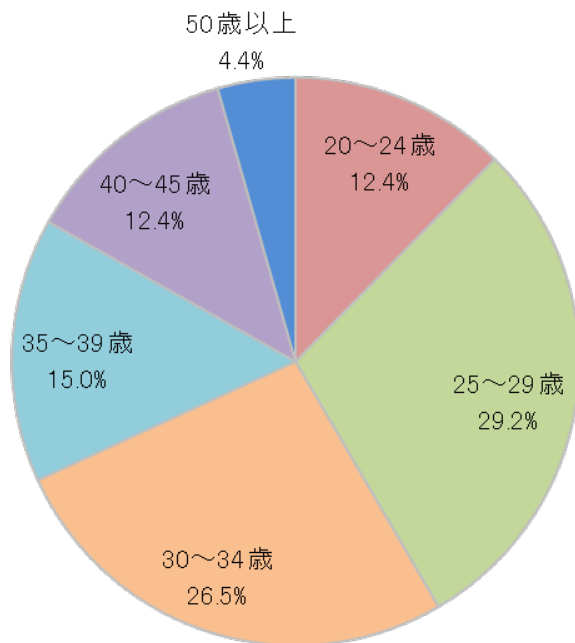
■コミュニティについて

- ・ 自宅、職場以外に気軽に立ち寄れる場所（サードプレイス）は、3人に2人は見つけている。年齢層が若いほど、サードプレイスを確保している。配偶者、子どもの有無では、共にいない人の方が、サードプレイスを見つけやすい傾向にある。（P.39,40）
- ・ 気軽に立ち寄れる場所（サードプレイス）は、「カフェ」、「友達の家」、「飲み屋」の順で多い。子どもがいる人は、「友達の家、趣味やサークルの場所、公民館などの公の施設」の割合が高く、対して子どもがいない人は、「カフェ、飲み屋」の割合が高い。（P.41）
- ・ 気軽に相談、雑談できる人数で最も多いのは、「2～3人」35.4%、次いで、「4～5人」21.2%となり、合わせると「2～5人」で5割を超える。仕事の満足度が低い人の方が、「相談、雑談できる人」が少ない傾向にある。（P.42）
- ・ 気軽に相談、雑談できる人は、「地域の人（友人）」77.4%で最も多く、次いで「協力隊員の仲間」58.6%となっている。仕事の満足度が高い人は、行政職員と相談、雑談できる割合が高い。配偶者がいる人、子どもがいる人の方が、「中間組織の人、地域の人、移住者」と相談できる人が多い。配偶者がいない、子どもがいない人は、「協力隊員の仲間」に相談雑談できる人が多い傾向がある。（P.43,44）
- ・ 任期中に困ったことで最も多いのは、「行政職員との人間関係やコミュニケーション」61.1%、次いで、「業務過多や収入・報酬面など仕事に関すること」51.3%となり、過半数を超える。一方、「地域の人との人間関係やコミュニケーション」は、34.5%となっている。年齢別では、20代後半が他の年齢層と比較して、全般的に困っていることが多い。子どもの有無では、子どもがいない人の方が「家族に関すること」以外では総じて困っている割合が高い。行政職員との関係で困っていることが多い。相談窓口の有無では、相談窓口がない方が「中間支援の組織の人」以外では総じて困っている割合が高い。相談窓口の有効性が感じられる。仕事の満足度が低い人の方が「行政職員との関係性」において困っている割合が高い。（P.45,46）

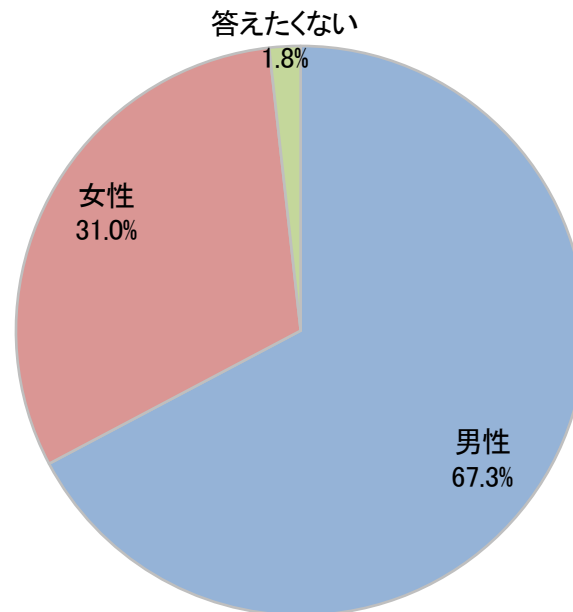
アンケート回答者の属性

アンケート回答者の属性 ①（年齢・性別）

[Q28]あなたが協力隊に赴任した時の年齢を教えてください。
(n=113)



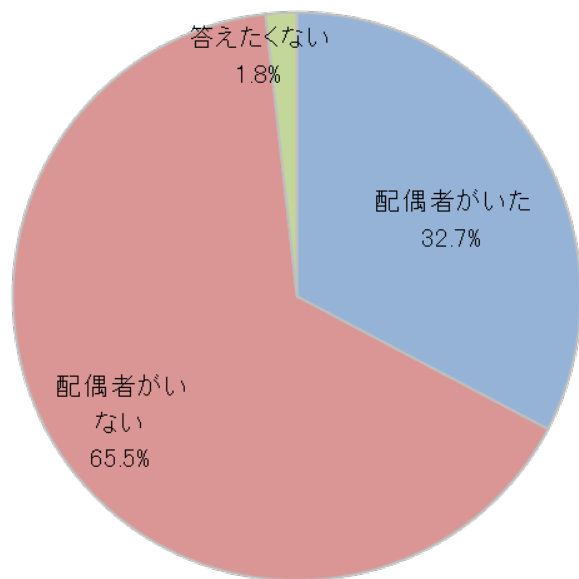
[Q29]あなたの性別を教えてください。
(n=113)



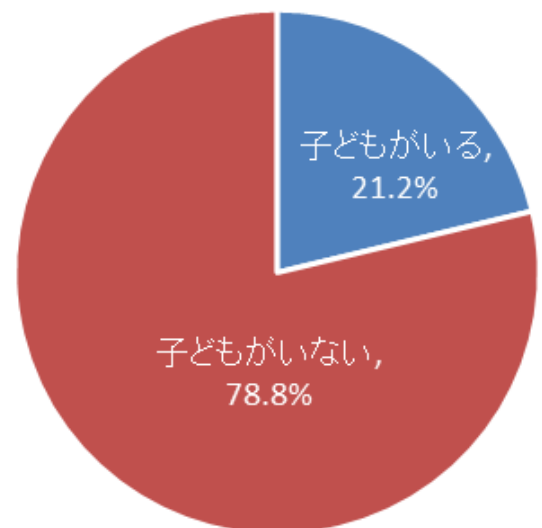
- ・ 赴任時の年齢は、25歳～34歳で、55.7%と半数を超える。
- ・ 性別の男性と女性の割合は、約7:3となっている。

アンケート回答者の属性 ②（配偶者・子ども）

[Q30]あなたは赴任時に配偶者がいましたか？
(n=113)



子どもの有無

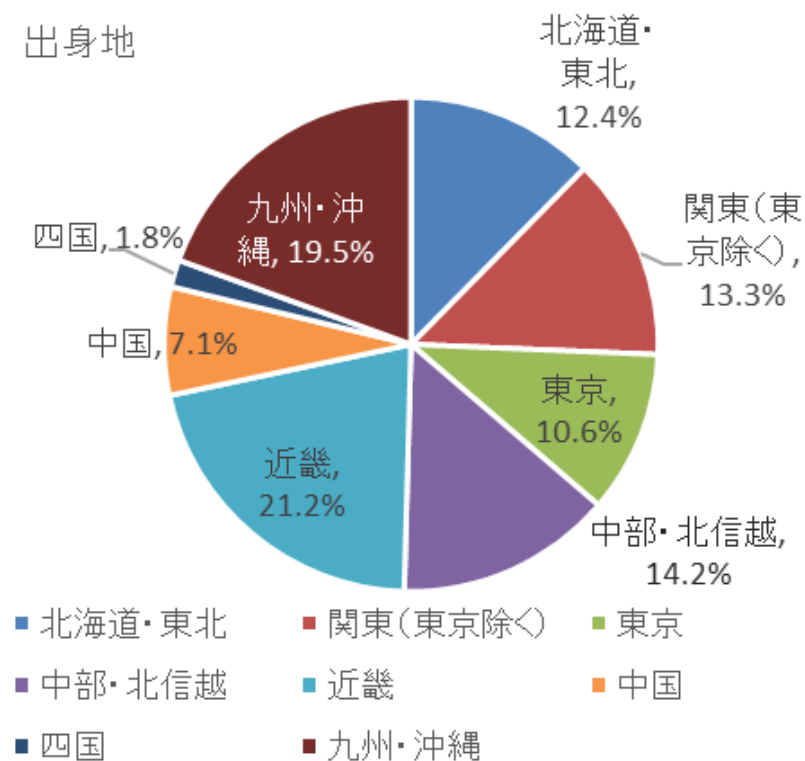


■ 子どもがいる ■ 子どもがいない

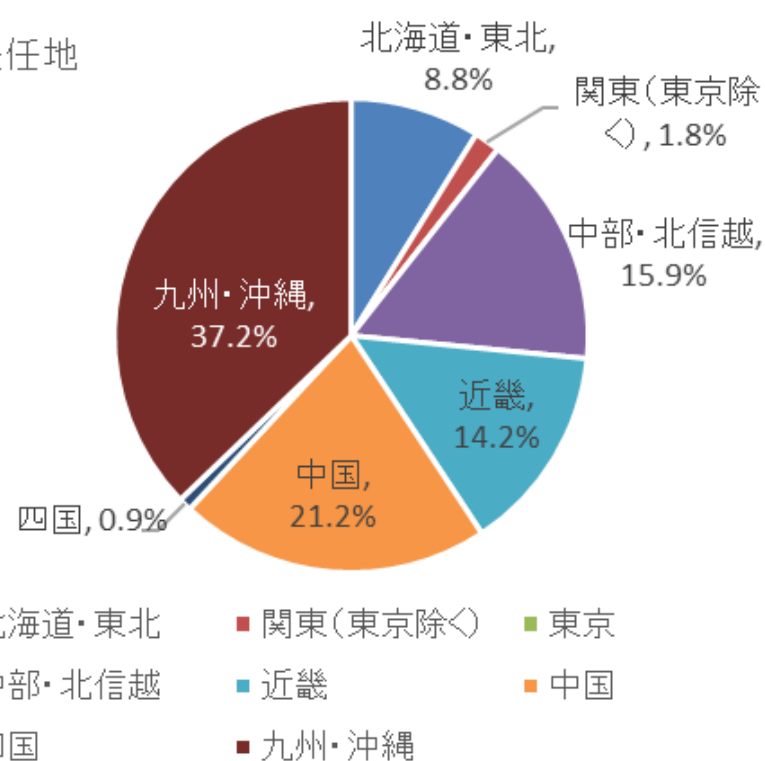
- ・ 赴任時の配偶者の有無は、配偶者がいるのが、32.7%と約1/3となっている。
- ・ 赴任時の子どもの有無は、子どもがいるのが、21.2%と約2割となっている。

アンケート回答者の属性 ③ (出身地・赴任地)

出身地



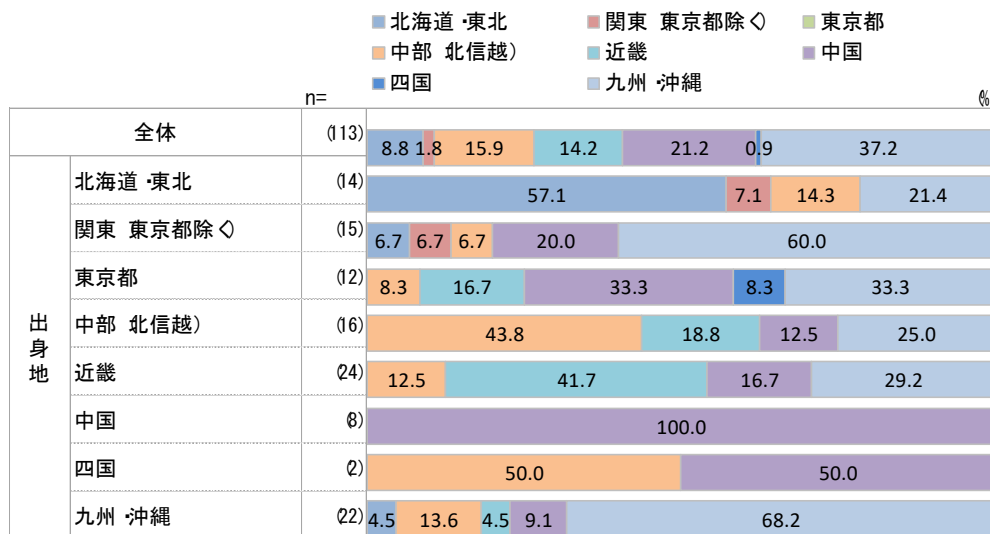
赴任地



- ・ 出身地は、多い順に近畿、九州・沖縄、中部・北信越となっている。
- ・ 赴任地は、多い順に九州・沖縄、中国、中部・北信越となっている。

アンケート回答者の属性 ④ (出身地×赴任地)

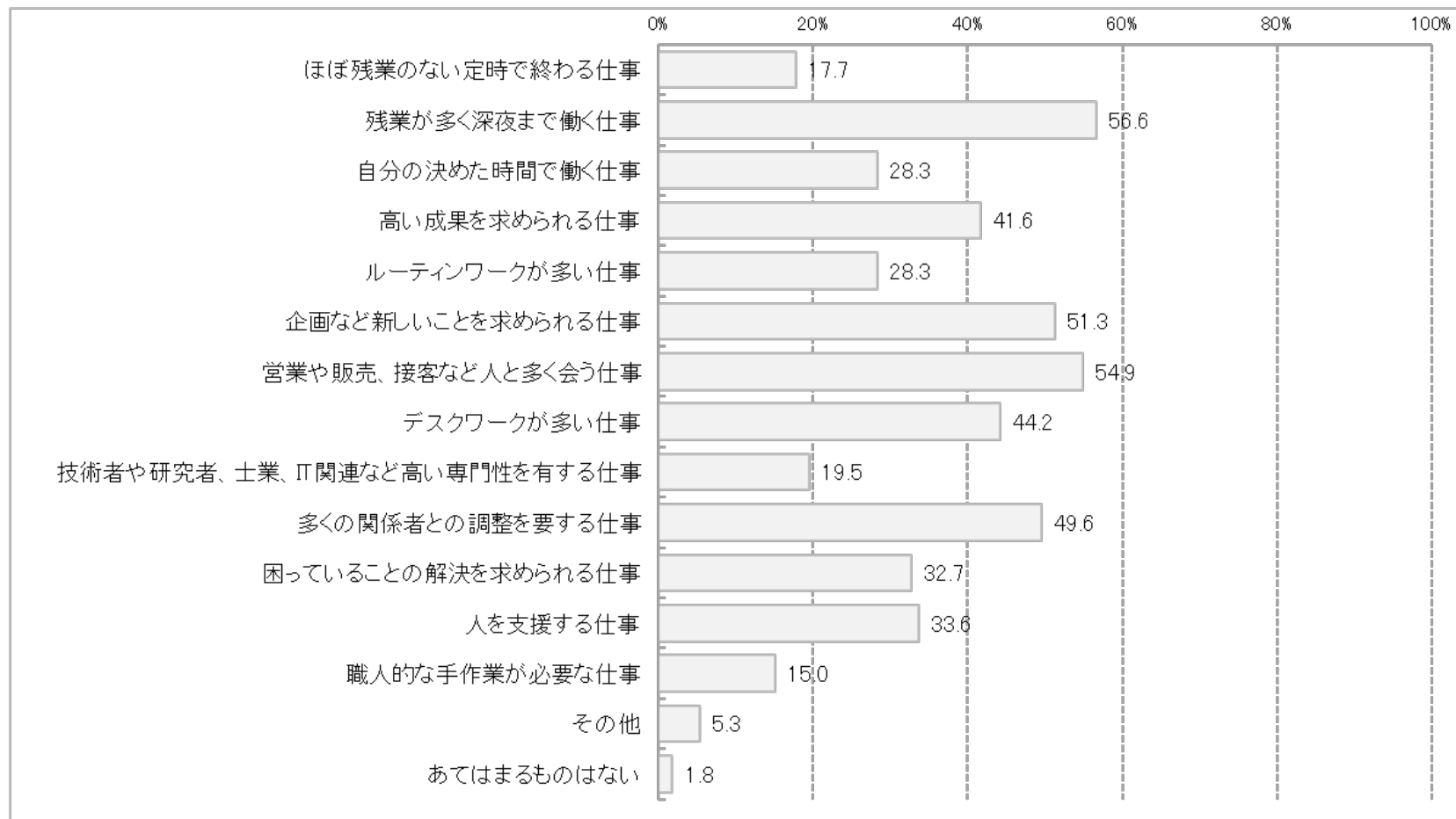
		n=	北海道・東北	関東（東京都除く）	東京都	中部（北信越）	近畿	中国	四国	九州・沖縄
全体		(113)	8.8	1.8	0.0	15.9	14.2	21.2	0.9	37.2
出身地	北海道・東北	(14)	57.1	7.1	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	21.4
	関東 東京都除く	(15)	6.7	6.7	0.0	6.7	0.0	20.0	0.0	60.0
	東京都	(12)	0.0	0.0	0.0	8.3	16.7	33.3	8.3	33.3
	中部 北信越	(16)	0.0	0.0	0.0	43.8	18.8	12.5	0.0	25.0
	近畿	(24)	0.0	0.0	0.0	12.5	41.7	16.7	0.0	29.2
	中国	(8)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	四国	(2)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	九州・沖縄	(22)	4.5	0.0	0.0	13.6	4.5	9.1	0.0	68.2



協力隊員は、Uターン・Jターンが狙い目！

- アンケート回答者を都道府県ブロック別に出身地と赴任地の比較すると、全体的に約半数は、出身地の地域へ赴任している。
- 特に中国地方は、8人と回答数が少ないが、100%出身地が赴任地である。
- 九州・沖縄、北海道・東北も半数以上が出身地域に赴任している。

アンケート回答者の属性 ⑤ （経験した仕事）



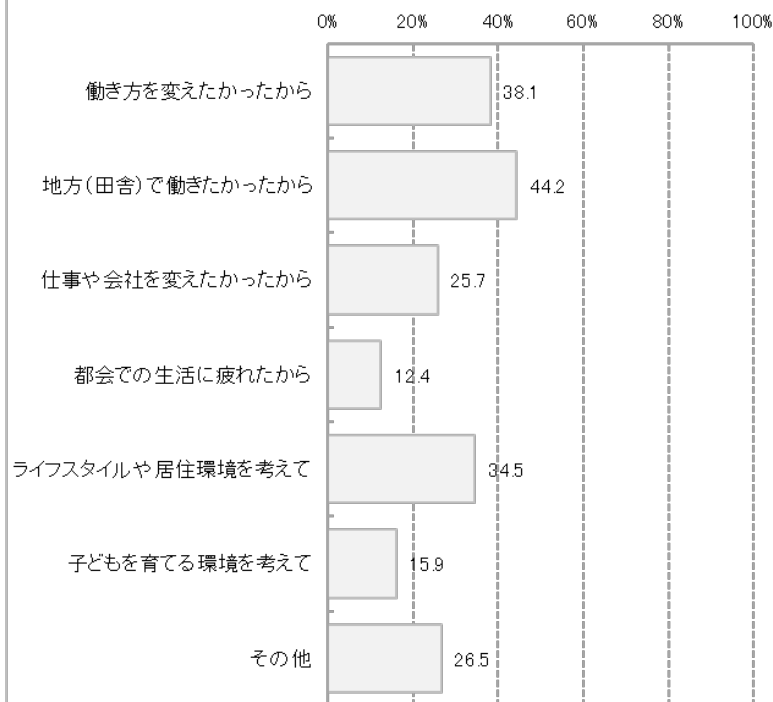
- これまでに経験した仕事は、多い順に「残業が多く深夜まで働く仕事」、「営業や販売、接客など人と多く会う仕事」、「企画など新しいことを求められる仕事」となっており、これらは50%を超えている。

移住検討から応募に至るまで

移住を検討した理由①

[Q1]あなたが移住を検討した理由は何ですか？当てはまるものをすべて選んでください。

(n=113)



「その他」を選択した自由記入の主な内容

【仕事関連】 11件

- ・やりたい仕事の求人があったから
- ・研究の実践をしたかったから
- ・田舎が儲かると思ったから
- ・町おこしの仕事に興味を持ったから など

【関係性】 6件

- ・家庭の事情による孫ターン
- ・彼氏がその場所に住んでたから
- ・地元できちんと就職して、足を固めたかった など

【自分の思い】 5件

- ・その地域で自分がやるべきことがある
- ・自分の在りたい姿、やりたいことに近づける など

- ・ 最も多いのは、「地方（田舎）で働きたかった」44.2%、次いで、「働き方を変えたかった」38.1%、「ライフスタイルや居住環境を考えて」34.5%となり、これらは3割を超える。

移住を検討した理由②

n=30以上の場合

[比率の差]			
	全体	+10 ポイント	
	全体	+5 ポイント	
	全体	-5 ポイント	
	全体	-10 ポイント	

		n=	から働き方を変えたかった	地方(田舎)で働いた	仕事や会社を変えた	都会での生活に疲れた	ライフスタイルや居住環境を考えて	子どもを育てる環境を考えて	その他
全体		(113)	38.1	44.2	25.7	12.4	34.5	15.9	26.5
配偶者の有無	配偶者がいた	(37)	45.9	43.2	24.3	16.2	54.1	37.8	8.1
	配偶者がいない	(74)	33.8	44.6	27.0	10.8	25.7	5.4	35.1
	答えたくない	(2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
全体		(113)	38.1	44.2	25.7	12.4	34.5	15.9	26.5
子どもの有無	子どもはいない	(89)	38.2	43.8	24.7	10.1	30.3	4.5	28.1
	子どもがいる	(24)	37.5	45.8	29.2	20.8	50.0	58.3	20.8

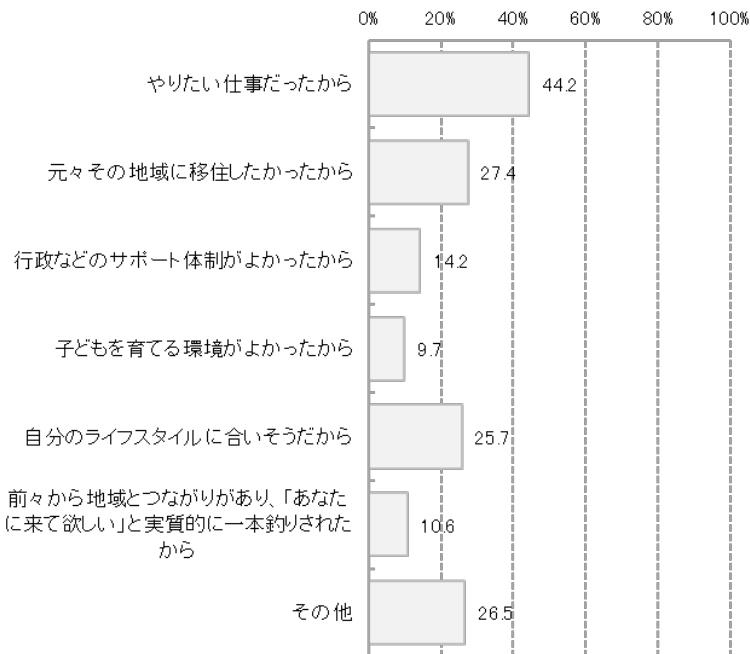
n=30以上の場合

[比率の差]			
	全体	+10 ポイント	
	全体	+5 ポイント	
	全体	-5 ポイント	
	全体	-10 ポイント	

		n=	から働き方を変えたかった	地方(田舎)で働いた	仕事や会社を変えた	都会での生活に疲れた	ライフスタイルや居住環境を考えて	子どもを育てる環境を考えて	その他
全体		(113)	38.1	44.2	25.7	12.4	34.5	15.9	26.5
赴任時の年齢	20～24歳	(14)	7.1	50.0	14.3	0.0	21.4	0.0	35.7
	25～29歳	(33)	54.5	57.6	33.3	15.2	39.4	9.1	18.2
	30～34歳	(30)	40.0	33.3	26.7	23.3	53.3	30.0	30.0
	35～39歳	(17)	35.3	35.3	17.6	11.8	23.5	17.6	17.6
	40～45歳	(14)	42.9	57.1	28.6	0.0	21.4	21.4	21.4
	50歳以上	(5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	80.0

- 配偶者がいた人は、「働き方やライフスタイル、子どもの育てる環境」に重きがあり、特に子どもがいる人の半数以上は、移住の検討理由に挙げている。
- 年齢別では、20代後半と30代前半で大きな差がある。20代後半は「働き方」の要素が強いが、30代前半「子供の育てる環境などライフスタイル」の要素が強く出ている。

[Q2]あなたが協力隊として、赴任した地域を選んだ理由は何ですか？当てはまるものをすべて選んでください。
(n=113)



「その他」を選択した自由記入の主な内容

【関係性】 14件

- ・ たまたま知り合いに誘われたから
- ・ 夫の出身地だったから
- ・ 出身県だったから
- ・ 人との縁のつながりの中で辿り着いた など

【仕事】 5件

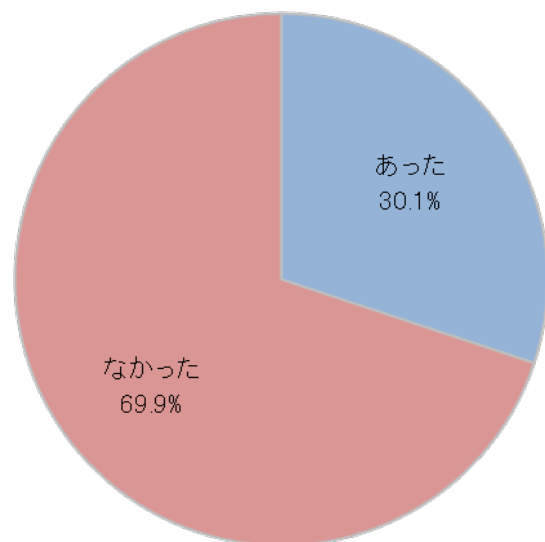
- ・ 農業関連の募集だったから
- ・ 1番自分の能力が活用できる内容だったから
- ・ 事業をやるための足がかりになると思ったから など

【直感・流れ】 5件

- ・ 直感(なんとなくですが魅力を感じた)
- ・ 見学した時の直感
- ・ 話しの流れでそうなった など

- ・ 最も多いのは、「やりたい仕事だったから」44.2%、次いで、「元々その地域にい移住したかったから」27.4%、「その他」26.5%、「自分のライフスタイルに合いそうだから」25.7%となっている。
- ・ 「その他」の内容は、移住を検討した理由では、「仕事関連」が多かったのに対して、赴任地を選んだ理由では、「関係性」が多かった。実際に選択する際には、関係性の深いところから検討すると推測される。

[Q3]協力隊に応募するにあたり、家族などの反対はありましたか？
(n=113)

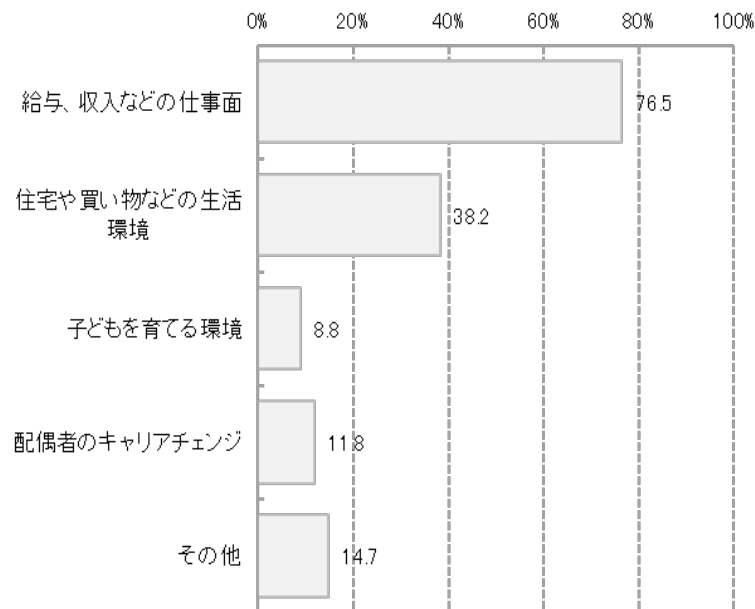


		n=	■ あった ■ なかった		(%)
全体		(113)	30.1	69.9	
移住を検討した理由	働き方を変えたかったから	(43)	27.9	72.1	
	地方（田舎）で働きたかったから	(50)	42.0	58.0	
	仕事や会社を変えたかったから	(29)	34.5	65.5	
	都会での生活に疲れたから	(14)	42.9	57.1	
	ライフスタイルや居住環境を考えて	(39)	30.8	69.2	
	子どもを育てる環境を考えて	(18)	33.3	66.7	
	その他	(30)	23.3	76.7	

- ・ 応募に際して家族などの反対があったのは、30.1%の約3割となっている。
- ・ 「地方（田舎）で働きたかった」「都会での生活に疲れた」の理由で移住を検討する人は、平均よりも10%以上反対される傾向にある。

家族の反対する理由

[Q4]協力隊の応募に家族などが反対する理由は何でしたか？当てはまるものをすべて選んでください。
(n=34)



n=30以上の場合

[比率の差]

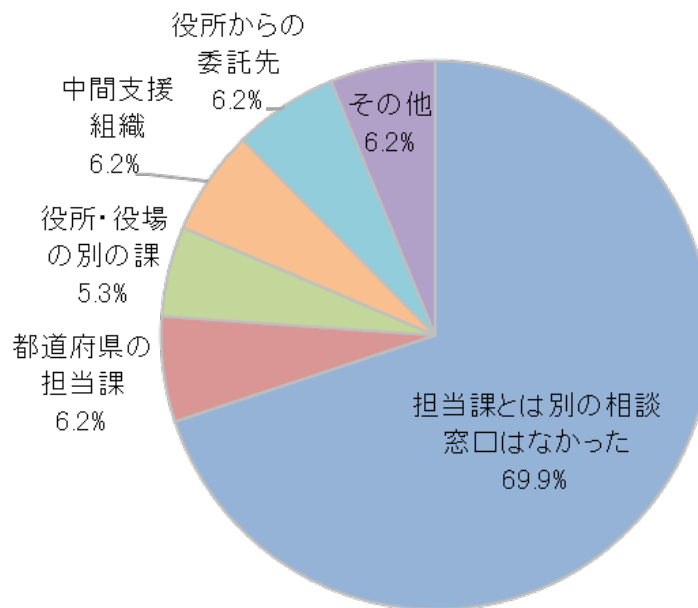


		n	仕事面、給与、収入などの	住宅や買い物などの生活環境	子どもを育てる環境	配偶者のキャリアチェンジ	その他
全体		34	76.5	38.2	8.8	11.8	14.7
赴任時の年齢	20～24歳	7	71.4	28.6	0.0	0.0	28.6
	25～29歳	8	62.5	37.5	0.0	12.5	12.5
	30～34歳	9	77.8	33.3	0.0	22.2	11.1
	35～39歳	6	100.0	66.7	33.3	16.7	0.0
	40～45歳	4	75.0	25.0	25.0	0.0	25.0
	50歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

- ・ 反対する理由は、「給与、収入などの仕事面」が76.5%、次いで「住宅や買い物などの生活環境」38.2%となっている。
- ・ 年齢別に反対理由を見ると30代後半が仕事面、生活面でも割合が多い傾向にある。

- 地理的な条件の有利性や将来ビジョンを説明した。
- 頑張るから大丈夫！
- 「やりたい仕事だから」と一点張りで通した。だが、説得はできていなかったと思う。
- 反対されても押し切った形。結果で示すしかないと思っていたから。2年目で会社を立ち上げ、3年目で事業推進、卒業後は役員報酬で生活していくプロセスで結果的に納得してもらっている。
- 三年経って成果が出ない場合は、出身地に戻って公務員試験を受けると宣言した。
- 地元に帰ってきたいということと、将来的に親の面倒をみるということ。
- 自分が本当にやりたい仕事であることを伝え続けた。
- 時間をとって自分の思いを説明をしたら納得をしてくれた。
- 若いうちだからこそやってみて、自分に合わなければまた考え直せばいい。今だからやれる挑戦をしたいと伝えました。
- 考えを伝え、その先は見切り発車。着任後の成功を見た時にやっと納得していたと思う。
- 説得せず無視して行動。強引に。
- 自分のやりたいことを日頃話し続けた
- 当時は20代だったので、20代のうちにチャレンジしてみたい。これをしないと後悔すると思う。お金や任期後の活動も正直課題はあるけども、活動中に決めていければいい。だから、行かせてください。
- やりたいことがあるから。やらせて欲しい。南の島への移住は昔からの夢だったから。
- "説得はしていない。言い出したらきかない性格だと、妻が諦めた？"
- 気長に待つ
- どうしてもやりたいと伝えた

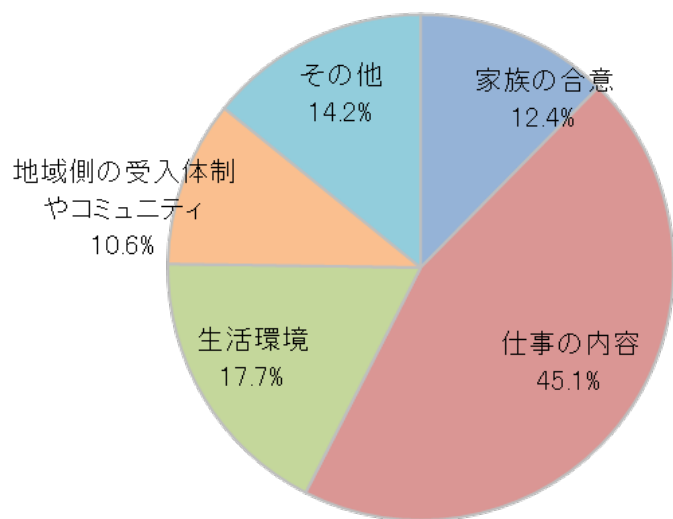
[Q6]協力隊に応募する担当課とは別に相談窓口はありましたか？あった場合、それはどこですか？
(n=113)



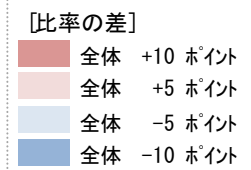
- 約7割は、「担当課とは別の相談窓口はなかった」と回答しており、何らかの相談窓口があったのは約3割となっている。

応募した一番の決め手①

[Q7]協力隊へ応募する一番の決め手は何でしたか？
(n=113)



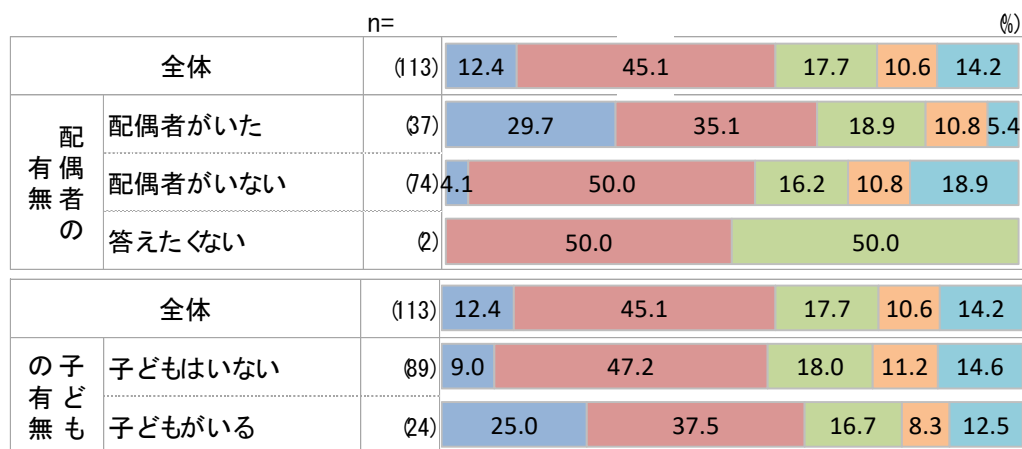
n=30以上の場合



		n=	家族の合意	仕事の内容	生活環境	地域側の受入体制やコミュニティ	その他
全体		(113)	12.4	45.1	17.7	10.6	14.2
赴任時の年齢	20～24歳	(14)	0.0	50.0	7.1	28.6	14.3
	25～29歳	(33)	6.1	48.5	27.3	9.1	9.1
	30～34歳	(30)	16.7	33.3	23.3	16.7	10.0
	35～39歳	(17)	23.5	29.4	17.6	0.0	29.4
	40～45歳	(14)	21.4	78.6	0.0	0.0	0.0
	50歳以上	(5)	0.0	40.0	0.0	0.0	60.0

- 最も多いのは、40代前半が「仕事の内容」であり、45.1%、次いで、「生活環境」17.7%、「その他」14.2%となっている。
- 年齢別では、20代前半は「受入体制」、30代前半は「生活環境」、30代後半は「生活環境と受入体制」、40代前半は「家族の合意とその他」、40代後半は「家族の合意と仕事内容」、50台以上は「その他」が平均よりも多い。

- 家族の合意
- 仕事の内容
- 生活環境
- 地域側の受入体制やコミュニティ
- その他



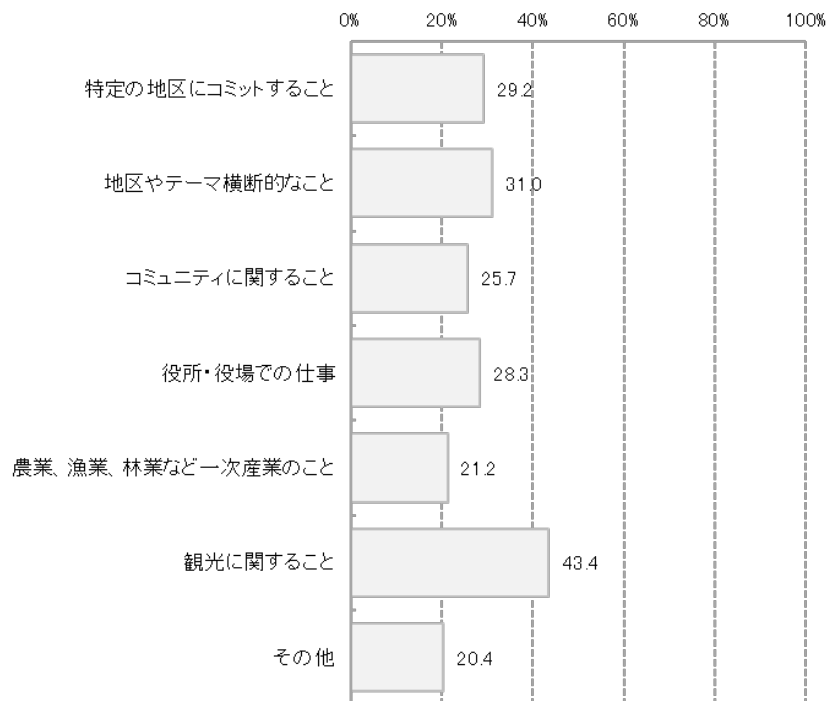
- 「家族の合意」は、「配偶者がいる場合」29.7%、「子どもがいる場合」25.0%と割合が10%以上全体よりも上がる。

任期中の仕事について

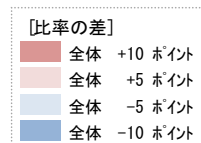
任期中の仕事内容

[Q8]任期中の仕事内容はどんなものでしたか？ 当てはまるものをすべて選んでください。

(n=113)



n=30以上の場合

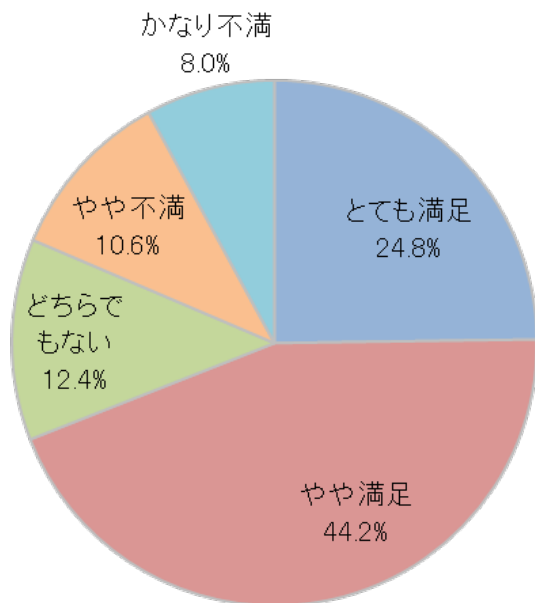


		n=	特定の地区にコミットすること	地区やテーマ横断的なこと	コミュニティに関すること	役所・役場での仕事	農業、漁業、林業など一次産業のこと	観光に関すること	その他
n=30以上の場合									
[比率の差]									
全体 +10 ポイント									
全体 +5 ポイント									
全体 -5 ポイント									
全体 -10 ポイント									
全体		(113)	29.2	31.0	25.7	28.3	21.2	43.4	20.4
応募する決め手	家族の合意	(14)	57.1	21.4	21.4	35.7	7.1	28.6	7.1
	仕事の内容	(51)	21.6	37.3	15.7	33.3	15.7	47.1	11.8
	生活環境	(20)	45.0	35.0	45.0	30.0	55.0	45.0	20.0
	地域側の受入体制やコミュニティ	(12)	25.0	25.0	33.3	8.3	8.3	58.3	41.7
	その他	(16)	12.5	18.8	31.3	18.8	18.8	31.3	43.8

- 最も多いのは、「観光に関すること」43.4%、次いで、「地区やテーマ横断的なこと」31.0%、「特定の地区にコミットすること」29.2%、「役所・役場での仕事」28.3%となっている。
- 応募する決め手では、「特定の地域にコミットする」では「家族の合意」、「一次産業」では「生活環境」、「観光」では「受入体制やコミュニティ」を決定要因とする人が半数を超えている。

仕事内容の満足度①

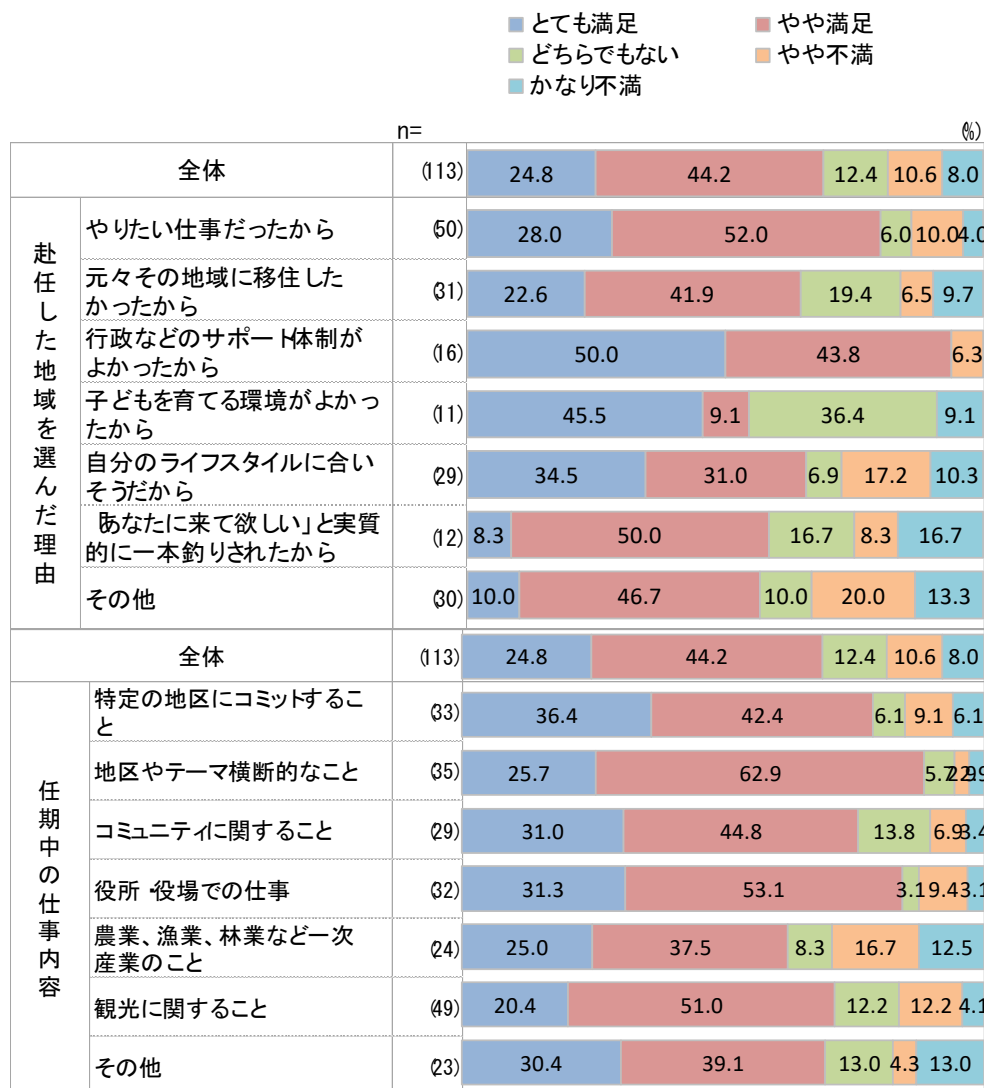
[Q9]任期中の仕事内容には満足していましたか？
(n=113)



		n=	%				
全体		(113)	24.8	44.2	12.4	10.6	8.0
これまでの 仕事経験	ほぼ残業のない定時で終わる仕事	(20)	25.0	30.0	25.0	10.0	10.0
	残業が多く深夜まで働く仕事	(64)	25.0	48.4	6.3	14.1	6.3
	自分の決めた時間で働く仕事	(32)	31.3	34.4	18.8	9.4	6.3
	高い成果を求められる仕事	(47)	27.7	44.7	10.6	8.5	8.5
	ルーティンワークが多い仕事	(32)	18.8	28.1	21.9	12.5	18.8
	企画など新しいことを求められる仕事	(58)	27.6	43.1	8.6	12.1	8.6
	営業や販売、接客など人と多く会う仕事	(62)	19.4	43.5	12.9	16.1	8.1
	デスクワークが多い仕事	(50)	24.0	30.0	18.0	14.0	14.0
	技術者や研究者、士業、IT関連など高い専門性を有する仕事	(22)	27.3	36.4	9.1	18.2	9.1
	多くの関係者との調整を要する仕事	(56)	23.2	48.2	10.7	8.9	8.9
	困っていることの解決を求められる仕事	(37)	21.6	51.4	8.1	13.5	5.4
	人を支援する仕事	(38)	31.6	47.4	7.9	7.9	5.3
	職人的な手作業が必要な仕事	(17)	35.3	23.5	17.6	11.8	11.8
	その他	(6)	16.7	83.3			
	あてはまるものはない	(2)	50.0	50.0			

- 仕事内容の満足度は、「とても満足」24.8%と「やや満足」44.2%を合わせると、約7割がプラスの評価をしている。
- これまでの仕事経験で「定時で終わる」、「ルーティンワーク」、「デスクワーク」、「職人的な手作業」の仕事をしてきた人は、全体よりも10%以上満足度が低い。

仕事内容の満足度②



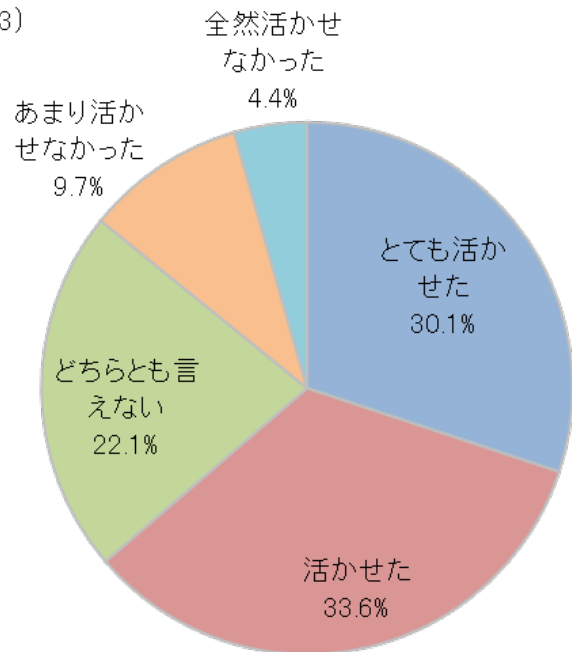
- 赴任地を選んだ理由で、「行政などのサポート体制がよかったから」と回答している人は30%以上、「やりたい仕事だったから」と回答している人は10%以上、全体よりもプラスの評価（満足度）が高い。

- 任期中の仕事内容では、「地区やテーマ横断的なこと」は約20%、「役所・役場での仕事」は約15%、「特定の地区にコミットすること」は約10%が全体よりもプラスの評価（満足度）が高い。

前職までの経験が活かされたか

[Q11]任期中の仕事内容は、前職までの経験が活か
されましたか？

(n=113)

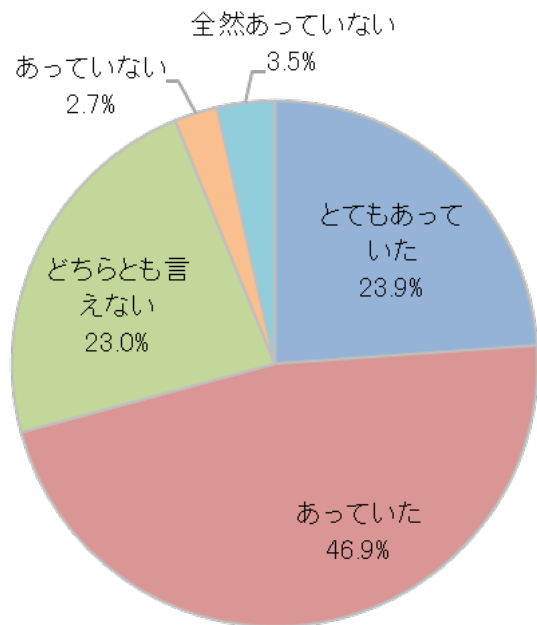


		n=	とても活かされた	活かされた	どちらとも言えない	あまり活か せなかった	全然活か せなかった	(%)
全体		(113)	30.1	33.6	22.1	9.7	4.4	
これまでの 仕事経験	ほぼ残業のない定時で終わる仕事	(20)	20.0	40.0	25.0	10.0	5.0	
	残業が多く深夜まで働く仕事	(64)	32.8	35.9	15.6	12.5	3.1	
	自分の決めた時間で働く仕事	(32)	46.9	21.9	18.8	6.3	6.3	
	高い成果を求められる仕事	(47)	38.3	34.0	19.1	4.3	4.3	
	ルーティンワークが多い仕事	(32)	18.8	34.4	31.3	9.4	6.3	
	企画など新しいことを求められる仕事	(58)	44.8	36.2	10.3	5.2	4.4	
	営業や販売、接客など人と多く会う仕事	(62)	30.6	38.7	16.1	11.3	3.2	
	デスクワークが多い仕事	(50)	34.0	30.0	20.0	12.0	4.0	
	技術者や研究者、士業、IT関連など高い専門性を有する仕事	(22)	31.8	31.8	22.7	9.1	4.5	
	多くの関係者との調整を要する仕事	(56)	39.3	37.5	14.3	7.1	8.8	
	困っていることの解決を求められる仕事	(37)	48.6	35.1	8.1	8.1		
	人を支援する仕事	(38)	47.4	28.9	15.8	7.9		
	職人的な手作業が必要な仕事	(17)	41.2	17.6	23.5	5.9	11.8	
	その他	(6)	16.7	33.3	33.3	16.7		
	あてはまるものはない	(2)	50.0		50.0			

- 前職までの経験は、「とても活かされた」30.1%と「活かされた」33.6%を合わせると約2/3は経験が活かしている。
- これまでの仕事経験では「企画など新しいことを求められる」、「困っていることの解決を求められる」、「関係者と調整を要する」、「人を支援する」仕事をしてきた人は、全体よりも10%以上経験が活かしている。

仕事内容の合致度

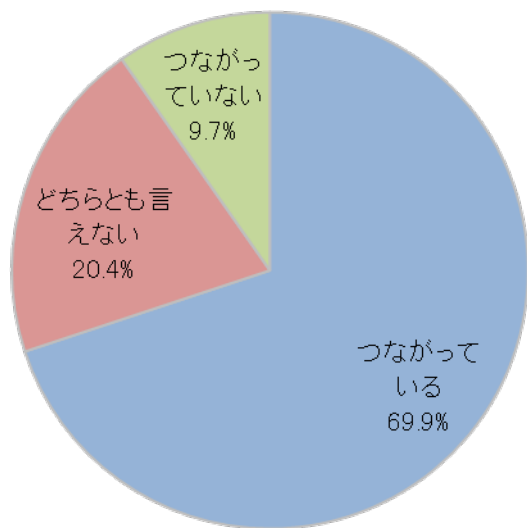
[Q13]任期中の仕事内容は、あなたに合ったものでしたか？
(n=113)



		n=					(%)
全体		(113)	とてもあった	あった	どちらとも言えない	全然あっていない	2.7%
これまでの仕事経験	ほぼ残業のない定時で終わる仕事	(20)	23.9	46.9	23.0	2.7	5.0
	残業が多く深夜まで働く仕事	(64)	20.0	35.0	40.0	5.0	
	自分の決めた時間で働く仕事	(32)	21.9	51.6	20.3	3.1	1.1
	高い成果を求められる仕事	(47)	28.1	43.8	21.9	3.1	1.1
	ルーティンワークが多い仕事	(32)	27.7	46.8	14.9	6.4	4.3
	企画など新しいことを求められる仕事	(58)	15.6	37.5	40.6	6.3	
	営業や販売、接客など人と多く会う仕事	(62)	27.6	43.1	22.4	3.4	4.4
	デスクワークが多い仕事	(50)	22.6	43.5	25.8	4.8	2.2
	技術者や研究者、士業、IT関連など高い専門性を有する仕事	(22)	18.0	44.0	30.0	4.0	4.0
	多くの関係者との調整を要する仕事	(56)	22.7	50.0	22.7	4.5	
	困っていることの解決を求められる仕事	(37)	26.8	44.6	21.4	3.6	5.6
	人を支援する仕事	(38)	21.6	43.2	32.4	2.7	
	職人的な手作業が必要な仕事	(17)	26.3	47.4	23.7	2.6	
	その他	(6)	29.4	23.5	41.2	5.9	
あてはまるものはない		(2)	33.3	50.0	16.7		
		(2)	50.0		50.0		

- 任期中の仕事は、自分に「とてもあった」23.9%、「あった」46.9%と約7割がプラスの回答している。
- これまでの仕事経験では「定時で終わる」、「ルーティンワーク」、「職人的な手作業」の仕事をしてきた人は、全体よりも10%以上プラスの回答が低い（マイナス）傾向にある。

[Q15]任期中の仕事内容は、任期終了後の次の仕事に繋がっていますか？
(n=113)

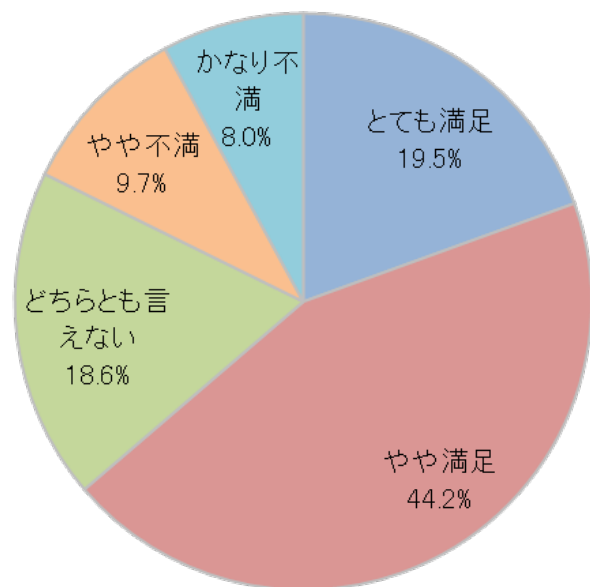


		n=	■ つながっている ■ どちらとも言えない (%)		
全体		(113)	69.9	20.4	9.7
赴任した地域を選んだ理由	やりたい仕事だったから	(50)	72.0	24.0	4.0
	元々その地域に移住したかったから	(31)	83.9	9.7	6.5
	行政などのサポート体制がよかったから	(16)	75.0	18.8	6.3
	子どもを育てる環境がよかったから	(11)	81.8	18.2	
	自分のライフスタイルに合いそうだから	(29)	65.5	27.6	6.9
	「あなたに来て欲しい」と実質的に一本釣りされたから	(12)	66.7	25.0	8.3
	その他	(30)	56.7	23.3	20.0

- 任期終了後の仕事に「つながっている」69.9%が回答しており、約7割が終了後も関連のある仕事をしている。
- 地域を選んだ理由で、「元々その地域に移住したかった」、「子どもを育てる環境がよかった」を選んでいる人は、全体よりも10%以上終了後の仕事に繋がっている傾向にある。

仕事の総合的な満足度①

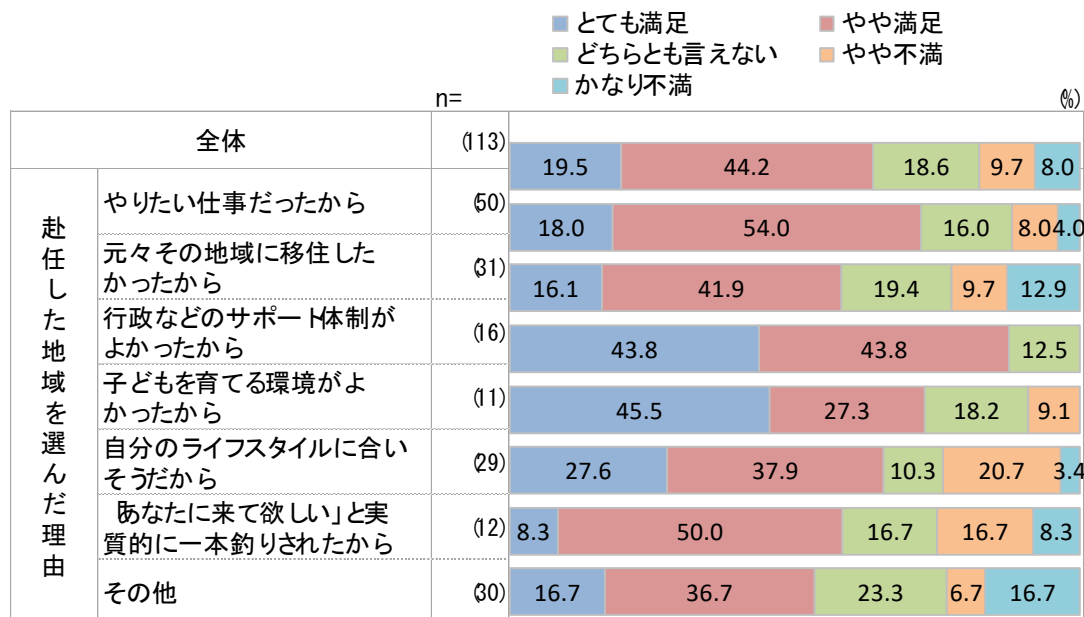
[Q17]協力隊の仕事に関して、満足していますか？
(n=113)



		n=	とても満足 やや満足 どちらとも言えない やや不満 かなり不満					(%)
全体		(113)	19.5	44.2	18.6	9.7	8.0	
これまでの仕事経験	ほぼ残業のない定時で終わる仕事	(20)	15.0	20.0	45.0	10.0	10.0	
	残業が多く深夜まで働く仕事	(64)	15.6	50.0	17.2	12.5	4.7	
	自分の決めた時間で働く仕事	(32)	25.0	31.3	28.1	9.4	6.3	
	高い成果を求められる仕事	(47)	21.3	38.3	21.3	10.6	8.5	
	ルーティンワークが多い仕事	(32)	15.6	34.4	15.6	18.8	15.6	
	企画など新しいことを求められる仕事	(58)	20.7	41.4	19.0	8.6	10.3	
	営業や販売、接客など人と多く会う仕事	(62)	11.3	50.0	21.0	9.7	8.1	
	デスクワークが多い仕事	(50)	18.0	40.0	18.0	10.0	14.0	
	技術者や研究者、工業、IT関連など高い専門性を有する仕事	(22)	22.7	27.3	27.3	9.1	13.6	
	多くの関係者との調整を要する仕事	(56)	19.6	41.1	21.4	8.9	8.9	
	困っていることの解決を求められる仕事	(37)	13.5	43.2	21.6	16.2	5.4	
	人を支援する仕事	(38)	18.4	44.7	21.1	10.5	5.3	
	職人的な手作業が必要な仕事	(17)	29.4	23.5	23.5	5.9	17.6	
	その他	(6)	16.7	66.7	16.7			
	あてはまるものはない	(2)	50.0	50.0				

- 協力隊の仕事の総合的な満足度は、「とても満足」19.5%と「やや満足」44.2%を合わせると63.7%がプラスの評価をしている。
- これまでの仕事経験から「定時で終わる」「高い専門性」「職人的な手作業」の仕事をしてきた人は、全体よりも10%以上プラスの回答が低い（マイナス）傾向にある。

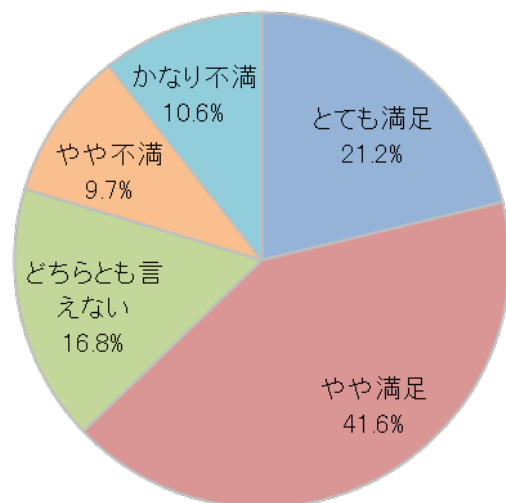
仕事の総合的な満足度②



- 地域を選んだ理由で「行政などのサポート体制がよかったから」を選んだ人は、全体よりも20%以上満足度が高い傾向にある。

住まいなどの生活環境について

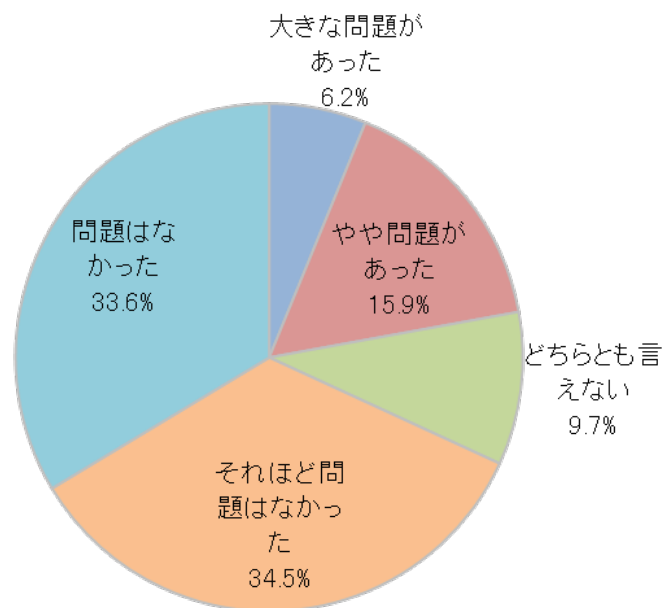
[Q19]任期中に居住していた家には満足していましたか？
(n=113)



		n=	%				
全体		(113)	21.2	41.6	16.8	9.7	10.6
配偶者の有無	配偶者がいた	(37)	24.3	51.4	16.2	5.4	2.7
	配偶者がいない	(74)	20.3	35.1	17.6	12.2	14.9
	答えたくない	(2)	100.0				
全体		(113)	21.2	41.6	16.8	9.7	10.6
子どもの有無	子どもはいない	(89)	20.2	40.4	18.0	10.1	11.2
	子どもがいる	(24)	25.0	45.8	12.5	8.3	8.3

- 住まいの満足度は、「とても満足」21.2%と「やや満足」41.6%を合わせると62.8%がプラスの評価をしている。
- 「配偶者がいる人」、「子どもがいる人」は、それぞれいない人に対して、「とても満足」「やや満足」のプラスの評価が、共に10%以上高い。単身者に合った住宅が少ないと考えられる。

[Q21] 普段の買い物などの生活環境で、不便が生じる
など問題がありましたか？
(n=113)



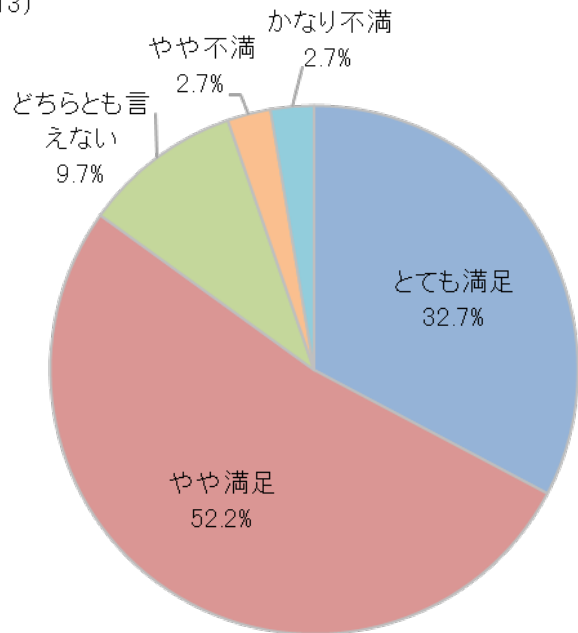
■ 大きな問題があった
■ やや問題があった
■ どちらとも言えない
■ それほど問題はなかった
■ 問題はなかった

		n=						(%)
全体		(113)	6.2	15.9	9.7	34.5	33.6	
配偶者の有無	配偶者がいた	(37)	13.5	18.9	13.5	32.4	21.6	
	配偶者がいない	(74)	2.7	13.5	8.1	36.5	39.2	
	答えたくない	(2)		50.0			50.0	
全体		(113)	6.2	15.9	9.7	34.5	33.6	
子どもの有無	子どもはいない	(9)	5.6	12.4	7.9	36.0	38.2	
	子どもがいる	(24)	8.3	29.2	16.7	29.2	16.7	

- 生活環境に関して最も多いのは、「問題はなかった」33.6%、「それほど問題はなかった」34.5%を合わせると68.1%となり、2/3は問題を感じていない。逆に約2割が問題を感じている。
- 「配偶者がいる人」、「子どもがいる人」は、それぞれいない人に対して、それぞれ約10%以上問題を感じている割合が高い。

[Q22]移住先での生活(仕事以外)に満足していましたか？

(n=113)



■ とても満足 ■ やや満足
■ どちらとも言えない ■ やや不満
■ かなり不満

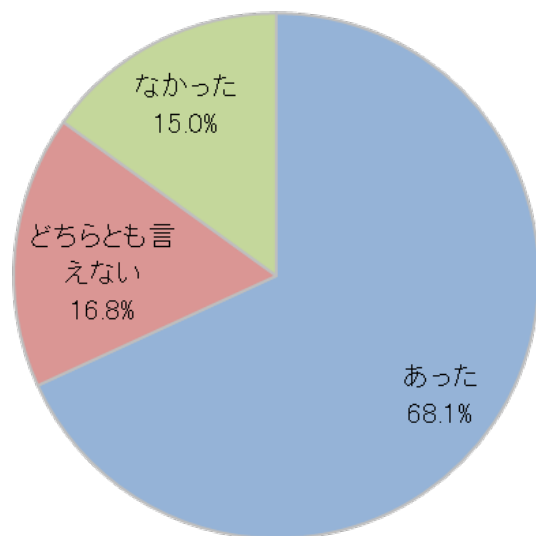
		n=						(%)
全体		(113)	32.7	52.2	9.7	2.7	2.7	
配偶者の有無	配偶者がいた	(37)	32.4	45.9	13.5	5.4	2.7	
	配偶者がいない	(74)	33.8	54.1	8.1	1.2	4.7	
	答えたくない	(2)	100.0					
全体		(113)	32.7	52.2	9.7	2.7	2.7	
子ども有無	子どもはいない	(89)	32.6	55.1	7.9	2.2	2.2	
	子どもがいる	(24)	33.3	41.7	16.7	4.2	4.2	
全体		(113)	32.7	52.2	9.7	2.7	2.7	
仕事の総合的な満足度	とても満足	(22)	72.7					4.5
	やや満足	(50)	24.0	62.0	8.0	6.0		
	どちらとも言えない	(21)	14.3	66.7	14.3	4.8		
	やや不満	(11)	36.4	45.5	9.1	9.1		
	かなり不満	(9)	22.2	44.4	22.2	11.1		

- 仕事以外の生活の満足度は、「とても満足」32.7%と「やや満足」52.2%を合わせると84.9%がプラスの評価をしている。
- 配偶者がいない人、子どもがいない人の方が、いる場合よりもプラスの評価をしている。
- 仕事の総合的な満足度では、仕事の満足度が高いほど、生活の満足度も高い傾向にあり、比例関係にあると言える。

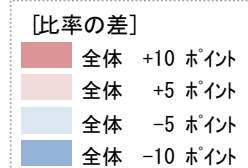
コミュニティについて

気軽に立ち寄れる場所①

[Q23]職場、自宅以外に気軽に行ける、立ち寄れる場所がありましたか？
(n=113)



n=30以上の場合



		n	あった	どちらとも言えない	なかった
全体		(113)	68.1	16.8	15.0
赴任時の年齢	20～24歳	(14)	92.9	0.0	7.1
	25～29歳	(33)	78.8	12.1	9.1
	30～34歳	(30)	73.3	16.7	10.0
	35～39歳	(17)	35.3	35.3	29.4
	40～45歳	(14)	50.0	21.4	28.6
	50歳以上	(5)	60.0	20.0	20.0

- 気軽に立ち寄れる場所が、「あった」68.1%と3人に2人の割合となっている。
- 年齢別では、年齢が若い層ほど、気軽に立ち寄れる場所がある傾向が出ている。

■ あった
■ どちらとも言えない
■ なかった

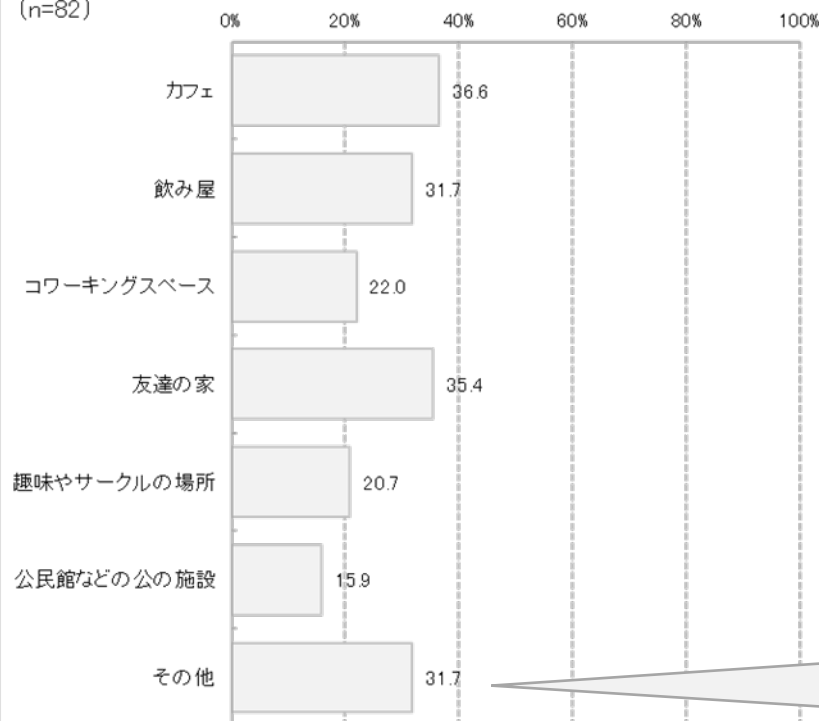
		n=	%		
全体		(113)	68.1	16.8	15.0
配偶者の有無	配偶者がいた	(37)	64.9	21.6	13.5
	配偶者がいない	(74)	70.3	14.9	14.9
	答えたくない	(2)	50.0	50.0	
全体		(113)	68.1	16.8	15.0
子どもの有無	子どもはいない	(69)	71.9	13.5	14.6
	子どもがいる	(24)	54.2	29.2	16.7

- 配偶者の有無では、配偶者がいない人の方が、いる人よりも「気軽に立ち寄れる場所」があったと回答している。
- 子どもの有無では、子どもがいない人の方が、いる人よりも15%ほど「気軽に立ち寄れる場所があった」と回答している割合が高い。

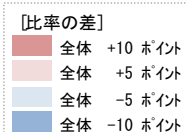
気軽に立ち寄れる場所③

[Q24]Q23.で「あった」を選んだ方に質問です。気軽に立ち寄れる場所はどんなところでしたか？当てはまるものをすべて選んでください。

(n=82)



n=30以上の場合



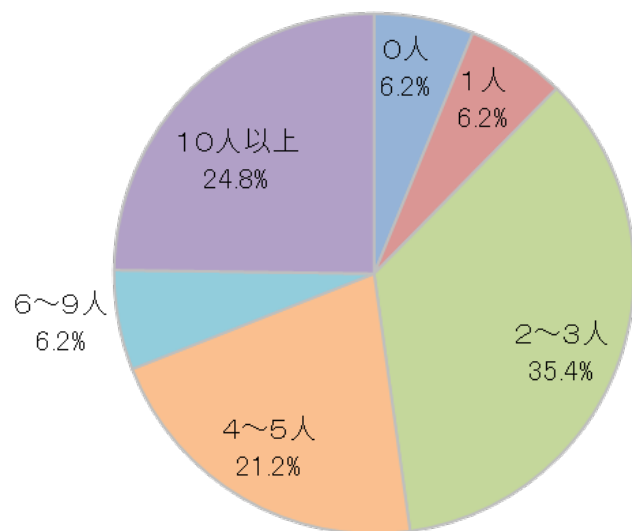
		n=	カフェ	飲み屋	コワーキングスペース	友達の家	趣味やサークルの場所	公民館などの公の施設	その他
全体		(82)	36.6	31.7	22.0	35.4	20.7	15.9	31.7
配偶者の有無	配偶者がいた	(24)	29.2	29.2	33.3	45.8	33.3	20.8	25.0
	配偶者がいない	(57)	38.6	33.3	15.8	31.6	15.8	14.0	35.1
	答えたくない	(1)	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
全体		(82)	36.6	31.7	22.0	35.4	20.7	15.9	31.7
子どもの有無	子どもはいない	(69)	40.6	34.8	23.2	31.9	18.8	13.0	31.9
	子どもがいる	(13)	15.4	15.4	15.4	53.8	30.8	30.8	30.8

記入主要内容

- ・ 地元有力者の自宅、祖父母の家
- ・ 大学連携との人材育成の拠点
- ・ NPO団体の事務所
- ・ 温泉施設、ワイナリー、ラーメン屋

- ・ 気軽に立ち寄れる場所は、「カフェ」、「友達の家」、「飲み屋」、「その他」の順が多い。ここまでが3割を超える。
- ・ 子どもがいる人は、「友達の家、趣味やサークルの場所、公民館などの公の施設」の割合が高く、対して子どもがいない人は、「カフェ、飲み屋」の割合が高い。「コワーキングスペース」は、配偶者がいるが、子どもはいる人が利用している割合が高いと考えられる。

[Q25]任期中に気軽に相談、雑談できた人は、赴任した地域内に何人くらいいましたか？
(n=113)

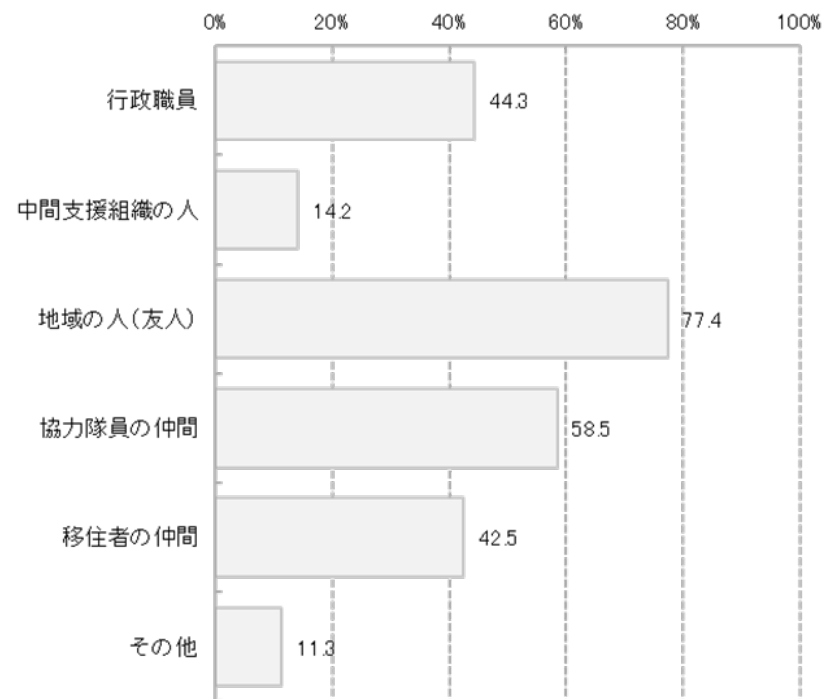


		n=	0人	1人	2～3人	4～5人	6～9人	10人以上	(%)
全体		(113)	6.2	6.2	35.4	21.2	6.2	24.8	
仕事の満足度の総合的な	とても満足	(22)	4.5	4.5	36.4	22.7		31.8	
	やや満足	(50)	10.0		30.0	24.0	8.0	28.0	
	どちらとも言えない	(21)	4.8		61.9		14.3	9.5	9.5
	やや不満	(11)	27.3		27.3	9.1	9.1	27.3	
	かなり不満	(9)	33.3		11.1	33.3		22.2	

- 気軽に相談、雑談できる人数で最も多いのは、「2～3人」35.4%、次いで、「4～5人」21.2%となり、合わせると「2～5人」で5割を超える。
- 仕事の満足度が低い人の方が、「相談、雑談できる人が少ない傾向にある。

相談、雑談できる人の種類①

[Q26]任期中に気軽に相談、雑談できた人はどんな人ですか？当てはまるものをすべて選んでください。
(n=106)



n=30以上の場合

[比率の差]	
全体	+10 ポイント
全体	+5 ポイント
全体	-5 ポイント
全体	-10 ポイント

		n=						
全体		(106)	44.3	14.2	77.4	58.5	42.5	11.3
仕事の 満足度 の総合 的な	とても満足	21)	66.7	19.0	81.0	57.1	52.4	9.5
	やや満足	50)	50.0	12.0	78.0	66.0	36.0	8.0
	どちらとも言えない	21)	23.8	19.0	71.4	47.6	47.6	14.3
	やや不満	8)	37.5	12.5	87.5	37.5	50.0	12.5
	かなり不満	6)	0.0	0.0	66.7	66.7	33.3	33.3

- 気軽に相談、雑談できる人は、「地域の人（友人）」77.4%で最も多く、次いで「協力隊員の仲間」58.6%となっている。
- 仕事の満足度が高い人は、行政職員と相談、雑談できる割合が高い。

相談、雑談できる人の種類②

n=30以上の場合

[比率の差]	
全体	+10 ポイント
全体	+5 ポイント
全体	-5 ポイント
全体	-10 ポイント

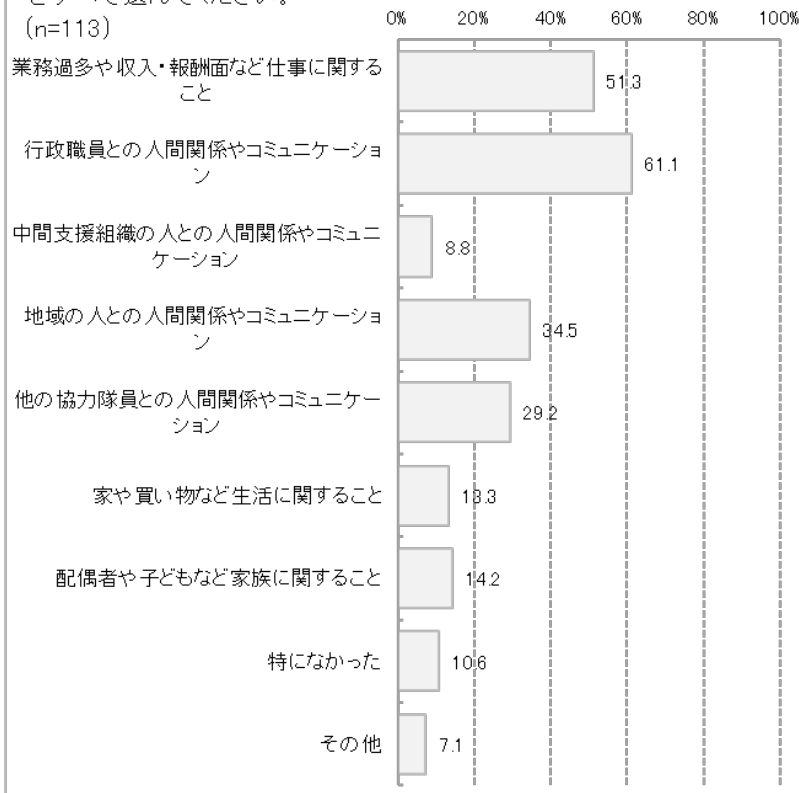
		n=	行政職員	中間支援組織の人	地域の人（友人）	協力隊員の仲間	移住者の仲間	その他
全体		(106)	44.3	14.2	77.4	58.5	42.5	11.3
配偶者の有無	配偶者がいた	(35)	48.6	25.7	88.6	45.7	54.3	8.6
	配偶者がいない	(70)	42.9	8.6	72.9	64.3	37.1	12.9
	答えたくない	(1)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
全体		(106)	44.3	14.2	77.4	58.5	42.5	11.3
子どもの有無	子どもはいない	(84)	44.0	10.7	73.8	60.7	39.3	13.1
	子どもがいる	(22)	45.5	27.3	90.9	50.0	54.5	4.5

- 配偶者がいる人、子どもがいる人の方が、「中間組織の人、地域の人、移住者」と相談できる人が多い。配偶者がいない、子どもがいない人は、「協力隊員の仲間」に相談雑談できる人が多い傾向がある。

任期中に困ったこと①

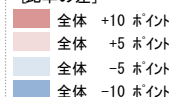
[Q27]任期中にどんなことに困りましたか？ 当てはまるものをすべて選んでください。

(n=113)



n=30以上の場合

[比率の差]



		n=	業務過多や収入・報酬面など仕事に関すること	行政職員との人間関係やコミュニケーション	中間支援組織の人との人間関係やコミュニケーション	地域の人との人間関係やコミュニケーション	他の協力隊員との人間関係やコミュニケーション	家や買い物など生活に関すること	配偶者や子どもなど家族に関すること	特になかった	その他
全体		(113)	51.3	61.1	8.8	34.5	29.2	13.3	14.2	10.6	7.1
赴任時の年齢	20～24歳	(14)	50.0	50.0	21.4	42.9	35.7	7.1	0.0	21.4	0.0
	25～29歳	(3)	57.6	66.7	6.1	51.5	36.4	18.2	15.2	6.1	3.0
	30～34歳	(30)	50.0	60.0	10.0	33.3	20.0	10.0	16.7	10.0	10.0
	35～39歳	(17)	47.1	76.5	5.9	17.6	41.2	5.9	17.6	11.8	17.6
	40～45歳	(14)	50.0	42.9	0.0	21.4	14.3	21.4	7.1	7.1	7.1
	50歳以上	(5)	40.0	60.0	20.0	0.0	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0
全体		(113)	51.3	61.1	8.8	34.5	29.2	13.3	14.2	10.6	7.1
の子ども有無	子どもはいない	(89)	56.2	62.9	9.0	38.2	31.5	13.5	11.2	10.1	5.6
	子どもはいる	(24)	33.3	54.2	8.3	20.8	20.8	12.5	25.0	12.5	12.5

- 最も多いのは、「行政職員との人間関係やコミュニケーション」61.1%、次いで、「業務過多や収入・報酬面など仕事に関すること」51.3%となり、過半数を超える。一方、「地域の人との人間関係やコミュニケーション」は、34.5%となっている。
- 年齢別では、20代後半が他の年齢層と比較して、全般的に困っていることが多い。
- 子どもの有無では、子どもがいない人の方が「家族に関すること」を除いて全般的に困っている割合が高い。

任期中に困ったこと②

n=30以上の場合

[比率の差]	
全体	+10 ポイント
全体	+5 ポイント
全体	-5 ポイント
全体	-10 ポイント

		n=	と面業務など仕事に収入・報酬	やコミュニティとの関係性	行政職員との関係性	中間支援組織の人との関係性	地域の人との関係性	シヨンの関係性	他の協力隊員との関係性	家や買い物など生活に	族に偶者や子どもなど家族に	特になかった	その他
相談窓口の有無	全体	(113)	51.3	61.1	8.8	34.5	29.2	13.3	14.2	10.6	7.1		
	担当課とは別の相談窓口はなかった	(79)	57.0	63.3	5.1	34.2	31.6	16.5	16.5	10.1	7.6		
	別に相談窓口はあった	(34)	38.2	55.9	17.6	35.3	23.5	5.9	8.8	11.8	5.9		
全体		(113)	51.3	61.1	8.8	34.5	29.2	13.3	14.2	10.6	7.1		
仕事の満足度の総合的な	とても満足	(22)	22.7	27.3	13.6	22.7	13.6	4.5	4.5	40.9	9.1		
	やや満足	(50)	62.0	64.0	8.0	40.0	32.0	16.0	18.0	4.0	4.0		
	どちらとも言えない	(21)	42.9	66.7	0.0	38.1	19.0	14.3	14.3	4.8	4.8		
	やや不満	(11)	81.8	72.7	18.2	27.3	54.5	9.1	18.2	0.0	9.1		
	かなり不満	(9)	44.4	100.0	11.1	33.3	44.4	22.2	11.1	0.0	22.2		

- 相談窓口の有無では、相談窓口がない方が「中間支援の組織の人」を除いて全般的に困っている割合が高い。相談窓口の有効性を感じられる。
- 仕事の満足度では、不満を感じている人の方が「行政職員との関係性」において困っている割合が高い。



<https://initiative.localventures.jp/>

ローカルベンチャー協議会
分科会「地域にチャレンジャーを呼び込み隊」

【メンバー】

- 宮崎県日南市 日南市役所 マーケティング専門官 田鹿 倫基
- 石川県七尾市 七尾街づくりセンター株式会社 戦略アテンダント 友田 景
- 岩手県釜石市 株式会社パソナ東北創生 代表取締役 戸塚 絵梨子
- 島根県雲南市 NPO法人おっちラボ 代表理事 小俣 健三郎
- 宮城県石巻市 ISHINOMAKI2.0 代表理事 松村 豪太
- NPO法人ETIC. 木村 静
- NPO法人ETIC. 松本 未生
- NPO法人ETIC. 茨木 いずみ

【事務局】

NPO法人ETIC. ローカルベンチャー事務局 担当：木村、松本
電話：03-5784-2115 Mail：local-info@etic.or.jp